

# みのEDO

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会  
TEL 0572-43-2141  
発信：多治見市・笠原町東京情報局  
TEL 03-5225-6863

## 特集

### かさはら窯ぐれ祭り実行委員会がSLフェスタで「おしまちゃんとSL」モザイクアート壁画制作——



「おしまちゃんとSL」のモザイク壁画原画  
(割付図；タテ6×ヨコ10＝60シート)



新金谷駅を出発するSL



島田市のシンボルキャラクター「おしまちゃん」

大井川鐵道(株)が沿線の市町（静岡県島田市・川根本町）とスクラムを組んで行なうイベント「SLフェスタ2013」が、さる10月11日（金）～13日（日）に行なわれた。全国に先駆けて「モザイクタイル」を誕生させた美濃焼の町・多治見市笠原町でタイル企業、食器企業等で構成する「かさはら窯ぐれ祭り実行委員会」では、今回、初めてこの「SLフェスタ2013」に出展。笠原町のモザイクタイルを提供して、13日に壁画制作の無料体験コーナーを実施、指導にあたった。

### 「SLフェスタ」とは？

「SLフェスタ」は、固有の地域資源であるSLを通して、家族で楽しみながら鉄道の醍醐味を満喫できるイベントで、合せて地元物産の販売や地域の人気グルメを集めたフードコートを設けて、地域の魅力を発信する。大井川鐵道 新金谷駅・千頭駅周辺、金谷駅前通りを会場に今年も「SLフェスタ2013」として開催された。蒸気機関車2両で運転する「SL重連運転」（新金谷駅～千頭駅）、SL



SL フェスタ・金谷駅前通り会場  
「かさほら窯ぐれ祭り実行委員会」の  
タイルアート無料体験コーナー



モザイク張りを体験する染谷 島田市長



タイルアート体験の受付・申込み



モザイクの番号を間違えないように張り板に  
モザイクを並べていく。もう一息！



タイルアートを指導したスタッフの皆さん



参加者のモザイク並べ完成  
(表紙張りをしてからひっくり返して裏メッシュを張る)

が横一列に3両並ぶ「SL大集合」をはじめ、線路保守作業に使う「レールスター」の乗車体験、車両整備工場見学などのほか、鉄道写真家やアイドルの鉄道なでしこを招いたトークショー、SL写真コンテストなど多彩なイベントが実施された。その一環として13日には、多治見市「かさほら窯ぐれ祭り実行委員会」による「みんなで作ろう！タイルアートで金谷を描く」コーナーが開設され、人気を呼んだ。

## モザイクアートの提案

「かさほら窯ぐれ祭り実行委員会」では、モザイクによるカラフルで多彩なデザイン表現や身近な創作アートに広く親しんでいただこうと、近年、モザイクアートの体験指導に積極的に取り組んでいる。今年9月には豊田市の「とよた産業フェスタ」会場でもモザイク体験教室を実施、今回は、笠原のモザイクとも縁の深いサンドブラストアーティストの土屋誠一さんが、この地元・島田市在住であ

ることから「地元の皆さんにぜひモザイクアートの創作体験を楽しんでもらおう」と、主催のSLフェスタ実行委員会との橋渡しをしてくださり、モザイク壁画制作の無料体験コーナーが実現した。

名峰・富士をバックに島田市のシンボルキャラクター「おしまちゃん」と大井川鉄道の顔であるSLを配した原画を実行委員会が用意。これをもとに「かさほら窯ぐれ祭り実行委員会」がコンピュータ解析による原寸のモザイク割付図（タテ1.8m×ヨコ3m）を作成、それを30cm角のモザイクシート60枚に分割して、参加者一人が1枚のモザイクシート張り（モザイク並べ）を楽しみながら、壁画制作を体験してもらおうというもの。

当日は快晴の秋日和。子どもさん、家族連れ、ご夫婦など、たくさんの市民や観光客がモザイク張りに参加。午前中には島田市の染谷絹代市長も飛び入り体験するというハプニングもあって大いに盛り上がり、夕方を待たずして60枚のモザイクシートが完成した。

## プラザロコ内にモザイクアート壁画完成、 11月27日に除幕式!!



「おしまちゃんとSL」のモザイク壁画、プラザロコ内に張付けられ完成



除幕式のカウントダウン



除幕式（右より伊藤社長、佐橋部長、石間部長、暮林実行委員長）

### 「タイルアート壁画」完成、除幕式!

10月13日に「SLフェスタ2013」会場で一般市民の方々が制作したモザイクシート60枚は、専門施工業者の手により大井川鐵道・新金谷駅前のプラザロコの壁に張付け施工され、「おしまちゃんとSL」モザイク壁画として完成した。11月27日（水）には、島田市・多治見市関係者が集い、一般参加者も交えて「SLフェスタ in かなや実行委員会」主催による除幕式が行なわれた。主な参加者は次の方々だった。

○多治見市役所 経済部長 佐橋政信氏

○笠原陶磁器工業協同組合 理事長 隅谷建壬氏

○多治見市役所 産業観光課 タイル館担当 堀江哲史氏

○笠原陶磁器工業協同組合 青年部会長 宮川憲市氏

○笠原陶磁器工業協同組合 事務局長 高木博光氏

○笠原町商工会 事務局長 志津隆幸氏

○協同組合ケーエシジー 専務理事 早川哲夫氏

○島田市役所 企画部長 石間鉦哉氏

○島田市役所 政策推進課長 森下庸雄氏

○島田市役所 金谷南地域総合課 地域係長 秋山文男氏

○大井川鐵道株式会社 代表取締役社長 伊藤秀生氏

○SLフェスタ in かなや実行委員会 実行委員長 暮林亮治氏

○島田市商工会 会長 鳴島秀夫氏



壁画の前で多治見市関係者の記念写真



多治見市・佐橋経済部長



式典のもよう



島田市・石間企画部長



式典のもよう

## 除幕のカウントダウンに拍手喝采

当日は午前11時より開式、初めに暮林実行委員長より開式の挨拶があり、多治見市・佐橋経済部長、大井川鐵道㈱・伊藤社長、島田市・石間企画部長、暮林実行委員長の皆さんの手で除幕のカウントダウンにしたがって幕が引かれ、会場は拍手喝采に包まれた。続いて来賓挨拶が行なわれた。

「本日、タイルアートが完成し除幕式が行われることに心よりお祝い申し上げます。壁画に描かれた題材はまさに静岡県島田市の魅力が一枚に凝縮されたものです。使用されたモザイクタイルは多治見市が世界に誇る窯業＝焼き物文化の中心的素材であります。島田市がこのモザイクで描かれた情景のように空にはばたく魅力あふれる街でありますよう祈念し、またかさはら窯ぐれ祭り実行委

員会の皆様には全国にモザイクタイルの魅力を発信していただき感謝するとともに、主催のSLフェスタ in かなや実行委員会の皆様、関係各位に心より感謝します。」(市長祝辞代読/多治見市・佐橋経済部長)

「本日まで出席いただきましたSLフェスタ関係各位、多治見市の皆様に御礼申し上げます。とくに『タイルアートで金谷を描く』の企画実施にあたり、美濃焼で有名な岐阜県多治見市の多大なるご協力いただき、小さなモザイクが集積してすばらしい大作になり感銘を受けました。世界文化遺産の富士山をバックに地域の特徴をよく表現され、左隅のおしまちゃんが華やかさを添えて、地域の絆を深める新たなシンボルとなり、新たな観光資源になると思います。」(市長祝辞代読/島田市・石間企画部長)

最後に、鳴島副実行委員長による閉式の挨拶で式典を終え、来場者には記念品が配布されて散会した。

## 全国タイル工業組合 モザイクメーカーが訪う 旧岩崎邸・東京藝大・国立博物館&東京ショールーム

全国タイル工業組合の小部会（小澤直樹 部会長・㈱オザワモザイクワークス）ではこの秋、「ジャパンホームショー 2013」の出展に合わせて上京したのを機に、東京・上野の森界隈の近代名建築・美術館などの視察見学会を10月25日に実施した。この日は4社（㈱オザワモザイクワークス、各務製陶㈱、鈴製陶㈱、杉浦製陶㈱）が参加。100年の風雪を経た歴史的名建築に使われるタイル施工例を中心に精力的に徒歩で見て回り、その後、西新宿のタイルショールームにお伺いした。



旧岩崎邸 洋館ベランダのタイル



旧岩崎邸庭園 洋館南側



東京藝術大学 陳列館  
(外壁スクラッチタイル)



東京藝術大学 赤レンガ1号館



東京藝術大学 旧正門と正木記念館

### 上野の森の名建築

ジャパンホームショー会場の東京ビッグサイト国際展示場を正午に出発、ゆりかもめで豊洲を経由し、地下鉄を乗り継いで千代田線・湯島駅にて下車。ここから徒歩数分で〈旧岩崎邸庭園〉に着く。三菱創設者・岩崎家本邸として1896年（明治29）にジョサイア・コンドルの設計で創建され、洋館のイギリススタイル黄金期のヴィ

クトリアンタイルや暖炉のタイル、和館の敷瓦など、往時の素材の豊かさが堪能できる。

ここから不忍の池を抜けて上野の山の西郷さんの銅像を横目に上野動物園入口を過ぎ、昨年、大改修を経てリニューアルオープンした赤レンガ調の〈東京都美術館〉を抜けると、美の殿堂・東京藝術大学が建つ。今回は時間の都合でキャンパス内をざっと散策しただけで東京国立博物館へと向ったが、藝大構内に残る明治時代の赤レ



東京国立博物館



本館1階 ラウンジモザイク壁画



リビエラ東京ショールーム  
東京都新宿区西新宿 5-3-2 イマス西新宿ビル1F



平田タイル 東京ショールーム & 東京事務所  
東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー1F

ンガ造建築を保存・再生した〈赤レンガ1号館・2号館〉の歴史を偲ばせるレンガの表情には郷愁を誘われた。外装スクラッチタイルの美しい近代建築〈陳列館〉、漆喰壁にいぶし瓦のコバ積みのような外装が潇洒な〈正木記念館〉など、見どころは尽きない。

### 東京国立博物館ラウンジの壁画

東京国立博物館は、わが国の総合的な博物館として本館・東洋館・平成館と三つの展示館で構成されるが、1937年（昭和12年）に宮内省内匠寮の設計によって建設された、最も古い本館1階ラウンジには漆喰にモザイクタイルをあしらった壁画がある。2008年にINAXライブミュージアムで、ものづくり工房（タイル制作）と左官職人・久住有生氏（壁施工）の手によって再現展示されたことでも知られる。

タイルを壁全面に敷き詰めるのではなく、漆喰壁の中にモザイク片がまばらに埋め込まれたようなその壁画は、そこにタイルが張ってあることすら気がつかないかもしれない。一見、地味な装飾壁だが、タイルピースをよく見ると、実に手の込んだ焼成・制作がなされていることがわかる。

### タイルショールームへ

次にJR「上野駅」から山手線に乗り、最近続々とタイルショールームの開設が続く西新宿エリアに向った。〈リビエラ東京ショールーム〉は、タイル・石材等の輸入販売を行なうリビエラ(株)が今年3月にイタリアタイルをメインに、同社としては初めて東京に開設したショールームで、デザイン性に特化したイタリアタイルをメインに展示。“サローネ・デラ・チェラミカ”（陶磁器のサロン）をコンセプトに、寛げるショールームづくりをすすめる。そのワインバーのような居心地のよさを満喫した参加者は感心しきりだった。

次に伺った〈平田タイル 東京ショールーム〉は、セラミックタイルの世界のトレンドを紹介する(株)平田タイルがこの7月にグランドオープンした待望の東京ショールームで、ユーザーから要望の多かったハイセラミクス・ビスケット・サンクレイの総合ショールームとして、同時にサンクレイ事業部本部・カバーリング事業部の東京事業所オフィスも併設、首都圏市場開拓の拠点としても位置づけられる。ここでは、ヨーロッパ・アメリカのデザイントレンドを紹介する新製品をはじめ300種を超えるモザイクパネルを堪能した。